有明3ひがた
ラムサール市民だより
荒尾干潟・東よか干潟・肥前鹿島干潟

第３号・平成 29 年９月発行
発行: 環有明海ラムサール市民だより実行委員会
荒尾干潟保全・賢明利活用協議会（熊本県荒尾市）
東与賀まちづくり協議会（佐賀県佐賀市）
まえうみ市民の会（佐賀県鹿島市）
協力機関 荒尾市環境保全課、佐賀市環境政策課、鹿島市ラムサール条約推進室
編集担当: 東与賀まちづくり協議会
年３回発行・各施設にて配布・PDF 配信

「アジア湿地シンポジウム（AWS）2017」が佐賀市で開催されます

荒牧　軍治

NPO 法人有明海ぐるりんネット代表理事
AWS 現地実行委員会委員長

2012 年に熊本県の荒尾干潟が、2015 年には佐賀県の東よか干潟・肥前鹿島干潟の２つの干潟が相次いでラムサール条約湿地に登録されました。登録を契機に、３つの地元では市役所と市民団体との連携により、登録干潟を活かした多くのイベントが開催されています。その一環として、多くの関係者の努力により、アジアの湿地の管理に携わるさまざまな国、地方政府、NGO、科学者、企業、地域の人々に情報共有や議論の場を提供し、課題の解決に向けて協働するプラットフォームを創り出すことを目標として「第８回アジア湿地シンポジウム（AWS）２０１７」が 11 月７日から 11 日まで佐賀市のグランデはがくれと東与賀文化ホールふれあい館で開催されることになりました。

シンポジウムというと、研究者だけが集まって難しい議論をする場所と思われがちですが、湿地シンポジウムは、科学者だけでなく、自治体職員、市民団体なども参加して幅広く議論し、課題解決を探る場です。荒尾市の高校生、佐賀市久保田町の中学生なども英語で発表するポスター部門に応募し、採択されました。アジアの湿地で活動する人々と意見を交わすことができる貴重な場です。初日の 11 月７日（火）午前の基調講演と午後の有明海セッションには同時通訳が付きますので十分に理解することができると思います。

また、11 月 11 日（土）午前 10 時からは佐賀市立東与賀文化ホールで、アジア湿地シンポジウム関連行事として佐賀市主催の公開シンポジウムが開催されます。「干潟を活かして地域を活性化したい」という同じ目標に向かって活動する仲間たちの話を聞く良い機会です。是非ご参加ください。

Asian Wetland Symposium 2017
7–11 November, Saga, Japan

アジア湿地シンポジウム（AWS）2017

■期日：平成 29 年 11 月７日（火）～11 日（土）
■場所：佐賀市　ホテルグランデはがくれ、東与賀文化ホール
■主催：環境省、日本国際湿地保全連合、ラムサールセンター、日本湿地学会
■共催：ラムサール条約東アジア地域センター、佐賀県、熊本県、佐賀市、鹿島市、荒尾市、国際湖沼環境委員会、
ウェットランド・リンク・インターナショナル・アジア
■HP：http://aws2017.org/jp/index.html

「ラムサール条約って何？」と思った方は、各登録湿地のパンフレット、または、ホームページ https://www.env.go.jp/nature/ramsar/conv/1.html をチェックしてね

荒尾 ー干潟ー

活動状況

●荒尾マジャク釣り大会

７月22日に荒尾マジャク釣り大会が開催されました。夏の日差しが厳しい中、県内外から約900人の参加がありました。筆を使ったマジャクとの駆け引きはまさに真剣勝負で、巣穴からマジャクを釣りあげた参加者の歓声が干潟に響いていました。参加者から、「筆を使う独特の漁法は面白くて、夢中になってしまいました」といった声が聞かれました。

マジャク釣りの様子

荒尾市応援隊長　西村さん

●荒尾干潟の日　干潟の生きもの観察会

７月８日に荒尾干潟で「干潟の生きもの観察会」を開催しました。荒尾市では、毎年７月３日を荒尾干潟の日と定めており、その取組の一環としての開催です。市内外から100人を超える参加があり、干潟の生きものを採集したあと、その生きものの名付け会を行いました。干潟ではカニや貝などたくさんの生きものを見つけることができました。その後、採集した生きものの名前を、講師の松浦先生に聞いたりしながら熱心に調べていました。

生きものを探しています

名前を調べています

●くまもと・みんなの川と海づくりデー　海岸清掃

海の日である７月17日に荒尾干潟の海岸清掃を行いました。熊本県では、ふるさとのきれいな川や海を健全な姿で次世代へ継承していくために、川や海の県内一斉清掃活動「くまもと・みんなの川と海づくりデー」の取組を毎年行っており、その取組の一環として行ったものです。一般の参加者のほか、企業、各種団体から500人が集まり、海岸に漂着しているごみの回収を行いました。その結果、燃えるごみ760kg、燃えないごみ300kgを回収しました。

清掃作業の様子

多くのごみが回収されました

今回の一枚

荒尾干潟ジュニアレンジャーの活動を７月から始めました。主に荒尾市内の小学４年生～６年生の21人で構成しています。８月20日に「再春館一本の木キッズクラブ」との交流事業で、荒尾干潟の生きもの観察会を行いました。干潟には、多くの生きものがいて、子どもたちは干潟の泥で汚れながらも、熱心に生きものを探していました。そのため、干潟では生きものを見つけた時の歓声や、生きものに触れない子の悲鳴などがたくさん聞こえていました。

野鳥飛来状況

秋の渡りの時期になりました。白いサギ類が目立つようになってきたほか、海岸の松林から飛び出すアオバトの群れが見られます。

８月22日

シロチドリ22羽　　メダイチドリ５羽
オオメダイチドリ１羽　　ダイゼン９羽
ソリハシシギ23羽　　キアシシギ111羽

８月27日

シロチドリ６羽　　メダイチドリ11羽
オオメダイチドリ３羽　　ダイゼン21羽
ソリハシシギ23羽　　キアシシギ89羽

観察会・関連行事のお知らせ

●ラムサール条約湿地登録５周年記念イベント「荒尾干潟のこれまで、そして未来へ」

荒尾干潟がラムサール条約湿地に登録されて今年で５年になりました。それを記念し、今後の荒尾干潟のあり方を考えるイベントを開催します。

日時：平成29年10月21日（土）
　　午後１時～午後４時
場所：荒尾総合文化センター　小ホール

●KODOMO湿地交流会 in 荒尾干潟

国内のラムサール条約湿地で活動している子どもたちが荒尾に集まり、交流会を開催します。

日時：平成29年11月４日（土）～５日（日）
場所：荒尾市働く女性の家（エポック・荒尾）、荒尾干潟

東よか ー干潟ー

東よか干潟にとっての脅威！

７月の九州北部豪雨の影響により、膨大な量の流木やゴミが東よか干潟に押し寄せました。梅雨時期の豪雨の後には毎年のように葦くず等が漂着しますが、今年は流木が特に多いのが特徴でした。その後佐賀県や漁業者の尽力により、８月末で撤去が完了し、これまでの美しい干潟の風景を望むことができるようになりました。今後回収した流木等の処分が急がれます。

一方、「今回の一枚」でも紹介しているとおり、大分県の九重町との交流の際に、高速道路から朝倉市周辺の被災風景を見ました。濁流にのまれた町や土砂に埋まっている車など・・・。一刻も早い復旧と復興を祈るばかりです。

活動状況

●干潟の生き物調査を実施中！

東よか干潟に生息する底生生物の現状を把握するため、今年度はラムサールクラブやボランティアガイドを交えた市民調査を実施しています。５月と８月の調査を終え、次回 10 月の調査で終了します。

おなじみのヤベガワモチをはじめ、たくさんの絶滅危惧種が生息している貴重な場所であることが分かりました。

佐賀大学と佐賀自然史研究会との合同調査です。

ヤベガワモチ

今回の一枚

８月１７日（木）東よか干潟ラムサールクラブ（子ども１４名大人１０名）が参加し、大分県九重町タデ原湿原の子ども達との交流を行いました。

この交流は、昨年 11 月にタデ原の子ども達が東よか干潟を訪問したことを機に始まったものです。

九重青少年の家に着き、お互いの湿地の紹介やクラブの活動報告のあと、ゲーム等をして交流を深めました。そのあと長者原ビジターセンターに移り、地元の特産物を使った「バーガー・盆団子」で昼食。タデ原湿原を子どものガイドさんの案内でゆっくり散策しました。ここではタデ原湿原の成り立ちや野焼きによる草原の維持、貴重な生き物を守る活動などについて分かりやすく説明をして頂きました。野焼きには、子どもたちも参加しているとのことでした。タデ原湿原では、草原の中にキスゲや、ノハナブショウ、ヒゴタイ、ハンカイソウなどの花が咲いていました。

野鳥飛来状況

立秋も過ぎやっと秋風を感じるようになりました、野鳥も季節を感じ、日一日と多く渡来してきています。（９月５日　満潮８：２４　潮位５.４m）
ハマシギ１１３２羽、ダイゼン８２０羽、アオアシシギ５１８羽、オバシギ１４２羽、シロチドリ１０５羽、メダイチドリ６１羽、ソリハシシギ４４羽、ホウロクシギ３２羽、チュウシャクシギ３０羽、ダイシャクシギ、２２羽、トウネン２１羽、オグロシギ１２羽、オオソリハシシギ８羽、アカアシシギ７羽、クロツラヘラサギ６羽、コアオアシシギ６羽、ウズラシギ５羽、エリマキシギ２羽、オオハシシギ２羽、キアシシギ１羽、セイタカシギ１羽

観察会・関連行事のお知らせ

●野鳥観察会（日本野鳥の会）
日　時　①10月22日（日）９：00～
　　②11月18日（日）８：00～
場　所　東よか干潟（大授搦）東よか干潟展望台

●夕暮れコンサート＆東よか干潟の十五夜を観る会
日　時　９月30日（土）１６：３０開場
場　所　東与賀町　干潟よか公園
琴の音を聞きながらお茶会や「若い音楽家」によるミニコンサートなど、干潟の景色と秋の夜長を楽しんでください。

●シチメンソウまつり開催
日　時　１１月3日（金）～5日（日）
場　所　東与賀干潟よか公園
国内最大の群生を誇るシチメンソウが紅葉するころに、毎年恒例のシチメンソウまつりが開催されます。

肥前鹿島 ー干潟ー

ラムサール条約湿地
肥前鹿島干潟
Ramsar Site hizenkashima-higata

九州北部豪雨漂流物が…

７月５日に発生した九州北部豪雨では、福岡県や大分県から筑後川へ流れ込んだ大量の流木や家屋材、漂流物が、有明海の湾奥部に溜まり、この地域特有の泥質干潟によって「練り込んだ」状況で打ち上げられてしまいました。次から次へと流れてくる漂流物に悪戦苦闘しながらも、肥前鹿島干潟一帯では市民総出でクリーンアップ活動が行われ、８月末現在除去完了しています。

他干潟では、まだ漂流物が残っている所もあり、渡り鳥渡来のシーズンに入る事から心配されます。

活動状況

●ウナギ塚生息調査

今年５月より、鹿島市音成川河口にある「ウナギ塚」にて生物調査を実施しています。ウナギはもちろんのこと、ハゼクチやユビナガスジエビ、タカノケフサイソガニ等、多種多様な生物を確認できます。２ヵ月に一度実施しており、次回は９月23日(土)午後行います。

●こどもラムサール観察隊「中川源流体験」

８月１６日、こどもラムサール観察隊と一緒に鹿島で一番大きい河川である「中川(鹿島川)」を上流から下流まで一日かけて辿ってきました!
上流の澄んだ水で子供たちは川での水遊びを楽しみ、このきれいな水が、海まで流れて干潟の生き物と私たちの生活を育んでいることを実感しました。

今回の一枚

山形県鶴岡市にあるラムサール条約湿地「大山上池・下池」を11名で視察してきました。鹿島市干潟展望館と交流のある鶴岡市立加茂水族館(クラゲ展示数ギネス記録)の視察と兼ね、有明海の干潟とは違う東北の自然環境を観察してきました。

野鳥飛来状況

９月は秋のシギ・チドリ渡りがピークになります。秋の渡りで鹿島に多いのはソリハシシギです。干潟を走り回って餌をとる姿は必見。カニが好きですが、トビハゼやトンボ(!?)も食べます。また、１０月の初めにはクロツラヘラサギの第一陣が肥前鹿島干潟に到着します。この頃になると、ぼちぼちカモ類の姿が見られる頃でしょうか。冬鳥の季節に入りますね。

観察会・関連行事のお知らせ

●Enjoy！有明海～知ろう・食べよう・まえうみを～
日時　29年10月1日（日）11:00～
場所　道の駅鹿島・鹿島市干潟展望館
問合せ　鹿島市干潟展望館
電話　0954-63-1723(担当　中村)
今年で３年目の有明海イベント。ムツゴロウの蒲焼体験、有明海の講座、フンボルトペンギンのタッチング等内容盛りだくさん！

●有明海・食のシンポジウム
日時　29年11月26日（日）10:00～
場所：鹿島市生涯学習センター　エイブル
問合せ　鹿島市ラムサール条約推進室
電話　0954-63-3416(担当　江島)
有明海と食をテーマにした女性向けのイベント。

●肥前鹿島干潟市民調査
日時　29年10月8日（日）14:00～
場所：道の駅鹿島前干潟　一帯
問合せ　鹿島市ラムサール条約推進室
電話　0954-63-3416(担当　森元)
市民の力を借りて、干潟の生物調査を実施します。
調査員を大募集中!!

編集担当より

今回で市民だよりも第３号！肥前鹿島→荒尾→東よかと編集担当もぐるっと一周してきました。もっと紙面が多ければもっといろんな情報が…と欲張ってしまうこの頃です…。